

●第27回通常総会への回答書40通のうち30通が届く反対意見表明一部反対6通意見書1通

コロナウイルスの感染予防のために緊急事態宣言期間も延長される事態になり、ワクチン接種もまだまだという状態あります。この中で第27回通常総会開催を迎えましたが、社員40名が一堂に集合して対面で議論する場面を作り上げるのは無理だと理事会や事務局会議で判断がされました。何よりも会場確保ができない決定的な要因があり、昨年同様に議案書を送付し質問疑問をいただきご返答させていただく事になりました。返答いただいた中のご質問で議案変更という提起はなく、大筋原案賛成が大勢を占めており、原案通り活動報告、決算報告、2021年度活動方針、2021年度予算案とも賛成多数と判断させていただきました。基本として前年度の活動を踏襲する内容ですべて決定いただきました。また、第1回理事会で大村幸正氏を新理事長に選び、副理事長に森島保氏が選出されました。

●5月27日国交省淀川事務所木津川出張所所長との話し合い 申し入れ内容

流域センター関係①河川協力団体の活動紹介 希少種・水生植物調査管理業務 生育調査 除草作業一連の事務作業手順(内容書類)を明示 公募 申請 ②木津川流域センターの充実(電話、印刷 事務所使用 屋外天井) ③流域センターの雨漏り対策が必要 床水除去道具設置されている 対策を至急実施されたい 天井に雨漏り跡あり④展示できる場所が狭いので展示場使用可能な部屋の充実 改装含む (2階倉庫の使用) 雨天対応の掲示板設置 教育的に使用可能な100人規模の屋外施設 ⑤防災倉庫に水没ドアの常時設置・木津川堤防工事状況パネル設置と公開(予算がないと返答)

施設全般の充実に関して①右岸プロムナードの開設(開橋～玉水橋)。国道24号線の歩道 ②木津川堤防の工事計画表の明示 業者との指示文書内容の違いが発生 (実施計画冊子提示と返答)

中聖牛と竹蛇籠製作関係①中聖牛設置への協力と共同 広場使用 設置作業 11月末 流域センターの使用 左岸20km付近 左岸 砂州頭への通路確保 ②玉水浜通路の確保 洪水被害時の復旧 中聖牛の点検観測 ③20.5K付近 木津川の山城町大川樋門下流の河川敷浸食場所対岸の説明を求める 砂州減少工事の明示 (聞いてくれた 計画を初めて知ったと返答)

魚とり体験関係①魚とり会場への通路の草刈り 右岸 開橋 山城大橋下流 左岸 草内渡しの浜(普賢寺川河口) ②魚とり会場の渇水時における水路の掘削確保 開橋 ③魚とり 普賢寺川河口での広場確保 除草作業 (例年通り 維持費予算減少されている 言ってほしいと返答)

イタセンパラの作業復元にに関して①イタセンパラの復活への取組み説明 ワンド周囲の整備 広く広報したい援助を (説明をきいたと返答 そのほか) 国交省近畿整備局 魅力ある淀川河川公園とするためご意見を募集します。 女性と子供、老人にやさしい淀川水系する 第一歩とするために 公設のトイレ設置 給水所設置 休憩所ベンチの設置 木津川 河川公園指定されていないので、無策だ 同意見が生かされるのかを要望しておきました。

●2020年度京都府交響プロジェクト事業での資料のさらなる充実のために

先日全報告事項が承認されまして交付金京都府の負担分全額が口座に振り込んでいただきました。残る自治振興会分も府と同額が振り込んでいただけるものです。2020年度は常務理事が入院治療に当たらなければならなくなり、予想しなかった理事長までが入院治療しなければならない事態になり、理事諸氏が一大決心、一致団結して難局を乗り越えていただきました。その結果無事に年度末の報告処理が行われ、近畿地方建設協会、国交省淀川河川事務所の木津川希少種・水生植物調査管

理業務、そして京都府交響プロジェクト事業交付金報告がまとめられました。これまで京都府交響プロジェクト事業交付金については何かと疑問点があつて報告した金額より減額されての交付金額でしたが、2020年度は報告金額通り決定をいただきました。非常に困難な中、見事に減額なしの支給に心から感謝申し上げます。来るべき新年度にもさらに期待に応えるべく頑張りたいと理事一同決意を新たにしています。高い評価ありがとうございました。

●2021 年度活動日程の検討が始まる

第 27 回通常総会議案が決定されましたので、予算書に基づいて活動日程の検討が始まりました。いま大きな意見が「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」という取組について回数問題、体力問題、河川レンジャーとの連携問題などに課題が集中しています。回数の減少と開催時期が絡む難しい課題に直面しています。今年は 10 月 3 日に全国各地から木津川での竹蛇籠・中聖牛を視察する方の全国の大회를開催することになっています。また竹蛇籠もこれまでのなく多くの製作数の注文があつて、9 月 10 月の日程は例年になく非常に込み合つて、我々にとって人手がなくて、現状では不可能な現状であります。ありったけの知恵を絞り例年どおりうまく開催できればと工夫をしています。

●県外研修の具体的検討を開始

これまで愛知用水や和歌山大水害地、豊岡のコウノトリ視察を実施し見分を広げてきました。昨年は残念ながら適切な研修課題や研修地が見つけれませんでした。ことし 2021 年度は阪神淡路大震災地域を訪ねてみてはとの意見がよせられたのでいかがでしょうかと検討しています。神戸市立の「人と地域の防災記念館」やできれば「神戸製鉄所の工場見学」、「野島断層記念館」、「大塚美術館」、などの視察を訪問先の候補に挙げています。また農業面では「玉ねぎ栽培」に関してもと考えております。まさに忙中閑ありきですが、腹を決めて取り決めたいものと思います。時期は 8 月後半の週に一泊 2 日でどうだろうかとしています。

●認定 NPO 資格獲得への準備提起

NPO 資格を得るために苦労を重ねて又その継続に心血を注いできましたが、25 年を節目の事業として認定 NPO 資格を得ることになれば、寄付文化の発展に寄与するのではないかと計算しています。多くの NPO がこの資格を得て、さらに躍進されているようにお聞きします。われわれ里山の会はさらに社会的信用を獲得するために努力を積み重ねてきましたが、日常活動に追われて具体的な取り組みには手が届きませんでした。昨年度から会計担当職員として小川さんが就任いただいたので、確定申告において書類の作成ができれば還付還元が可能になってくることになります。これも長年の里山の会の事業の一つであります。可能な限り挑戦してみるのも面白い課題ではないでしょうか。

●竹蛇籠製作講習会のために 4 つの課題が明確になりました

①中聖牛設置場所の決定 ②運び込みルートの決定 ③作業場所の決定 ④真竹採取の場所決定であります。昨日大曲と小谷地域の除草作業地の境界線の確認に播川理事と山村が立ち会いました。同時に松見建設への中聖牛と竹蛇籠の製作設置について協力の申し入れをいたしました。松見建設さんは昨年通りのことであれば快く協力するとご返事をいただきました。②については右岸からの侵入は無理と反対され、精華町に進入路はなるでしょうとの回答でした。②について伐木工事の通路があるので利用可能だろう、また今年も工事が予定されているので好都合ではないかともヒントをいただきました。

③については昨年も運搬したので可能でしょう、ただし右岸の自転車道を横断するので問題があるのではないかと。京都府との調整が必要でしょうと教えていただきました。